

マメトラ

取扱説明書



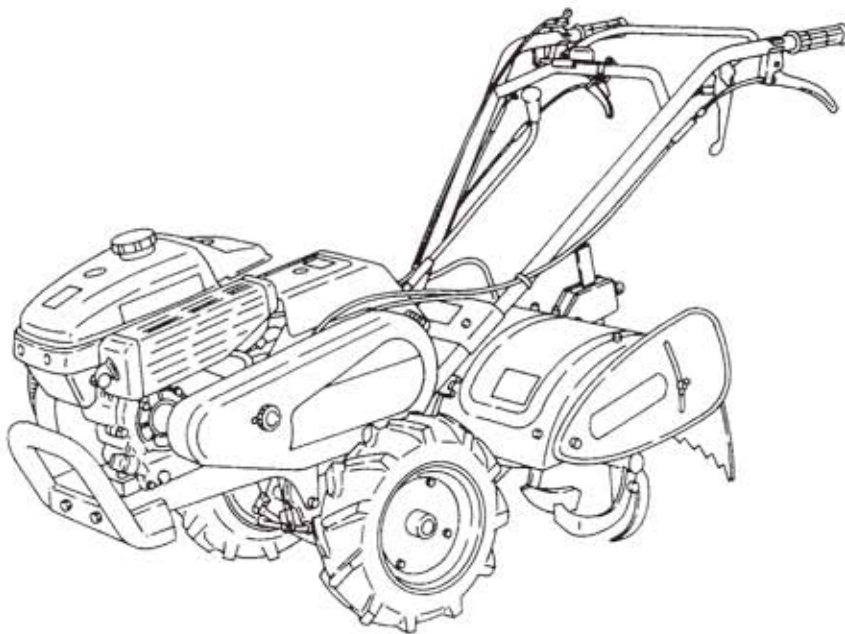
当製品を安全に、また正しくお使いいただく
ために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保存してください。

機種名

MPC5S・B

Just

マメトラパワフルカルチ



マメトラ 農機株式会社

はじめに

マメトラパワフルカルチMPC5S・Bを お買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書は「MPC5S・B」の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書をよくお読み頂き、正しい状態でご使用ください。

お読みになった後も、この取扱説明書を大切に保管してください。

製品を貸与される場合は、この取扱説明書も合わせて貸与し、説明書をよく読んでご使用してくださるよう请您してください。取扱い説明書を紛失、汚損された場合は、当社または、お買い上げいただきました販売店・農協に連絡してください。

なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。


ご不明のことやお気づきの点がございましたら、お買い上げいただきました販売店・農協にご相談ください。


本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合は、お買い上げの販売店・農協に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

◆注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示してあります。

 **危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあるものを示します。

サービスと保証について

☆保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

☆アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただきました販売店・農協、またはお近くの当社営業所までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式名・区分
- 機体番号・エンジンの場合エンジンの型式
- 故障内容（できるだけ詳しく）

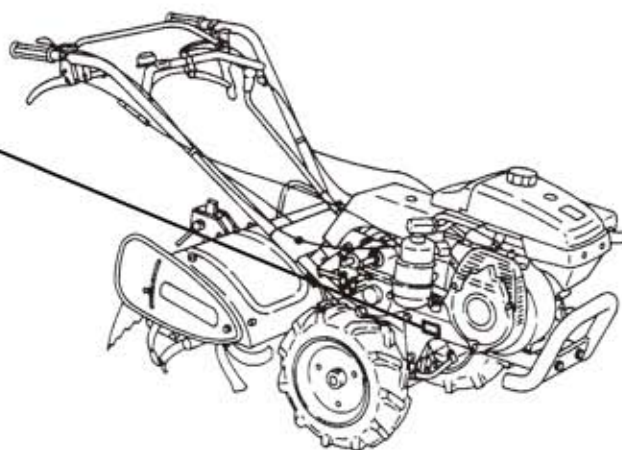
☆保証部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても供給の可否および納期、価格についてご相談させていただきます。

[例]

農業機械の種類	農用トラクター(歩行型)
型式名	マメトラMPC5S
区分	マメトラMPC5S・B
エンジンの型式	GB130LN-391
機体番号	10001
マメトラ農機株式会社	



☆取扱説明書について

本取扱説明書を紛失、汚損した場合はコードNo.145 9001 000でご注文ください。

目次

はじめに	I
サービスと保証について	II
目次	1
1 安全作業のための心得	2
2 安全マーク貼付位置	6
3 各部の名称とはたらき	8
4 作業前の点検・注意	10
5 操作方法	11
5-1 エンジン始動のしかた	11
5-2 発進のしかた	14
5-3 エンジン停止のしかた	15
6 変速レバーとクラッチ操作	17
6-1 チェンジレバー操作	17
6-2 ロータリーチェンジレバー操作	18
6-3 主クラッチレバー操作	18
6-4 サイドクラッチレバー操作	19
7 ハンドル・ロータリーカバー・前輪・ワイヤー・Vベルトの調整	20
7-1 ハンドルの調整	20
7-2 ロータリカバーの調整	20
7-3 前輪の調整	21
7-4 サイドクラッチワイヤーの調整	21
7-5 主クラッチワイヤーの調整	22
7-6 Vベルトの調整	22
7-7 上下調整ワイヤーの調整	23
8 運転操作上の注意	24
8-1 作業時のハンドル操作	24
8-1 傾斜地作業時の注意	24
8-1 枝下作業、段差のあるところ注意	24
8-1 トラックの積込み・積降ろしのしかた	25
9 クロス刃受・ドラムロータ組付要領	26
10 作業後の点検・整備	30
10-1 エンジンオイル	30
10-2 ミッションオイル	31
10-3 エアクリーナーの手入れ	32
10-4 ストレーナの掃除のしかた	33
10-5 定期点検一覧表	33
11 クロス刃受の点検・整備 (SRV35FX・B)	34
11-1 エンジンオイル	34
11-2 ミッションオイル	34
11-3 エアクリーナーの手入れ	35
11-4 ストレーナの掃除のしかた	36
12 長期間使用しないときの格納のしかた	37
12-1 格納のしかた	37
13 各種アタッチメントと作業方法	38
13-1 耕耘刃受の爪組立	38
13-2 耕耘作業と抵抗棒、整地板	38
13-3 溝掘セット30B	39
13-4 溝掘セット30E	40
13-5 らせん犁による培土と溝の埋戻し	41
13-6 デスクローターによる畦作り	41
13-7 SRV35FX・Bデスクローター	42
13-8 中耕、除草、補助ドラムと延長カバー	42
13-9 整地板アッシ	43
13-10 残耕処理棒	43
13-11 F15B平マルチ	44
14 不具合と対策方法	45
15 仕様	47
16 付属工具明細表	48
17 消耗部品一覧表	49
● 安全確認カード	

1 安全作業のための心得

本機を使用するにあたって

警告 こんなときは運転しない

次のような項目に該当する場合は、本機を使用しないでください。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- お酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 16才未満の人。
- 運転が未熟な人。



警告 使用する人の服装

滑りにくい安全靴・作業帽・ヘルメット・つなぎ等の作業に適した服装

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁

守らないと

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



警告 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

守らないと

死亡事故や重大な障害、機械の破損の危険性があります。



警告 機械の改造厳禁

機械の改造や、指定以外のアタッチメントを取付けしないでください。

守らないと

機械の故障、事故・ケガの危険性があります。



警告 毎年定期点検整備を受けてください

1年毎に定期点検整備、各部の保守をしてください。特に燃料パイプ・電気配線は2年毎に交換してください。

守らないと

整備不良による事故や故障の原因となります。



警告 点検整備は平坦で安定した場所を選びます

交通の危険がなく、機械が転倒しない安全な場所で整備をしてください。

守らないと

機械が動き出し、事故の原因になります。



使用前後の確認すること

危険 給油・注油・点検はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に給油・注油・点検はしないでください。厳禁です。

守らないと
引火して火傷や火災の危険性があります。



危険 火気厳禁

燃料補給時には、必ずエンジンを停止し、タバコやその他の火気を近づけないでください。

守らないと
燃料などに引火して火傷や火災の危険性があります。



危険 こぼれた燃料はふき取る

燃料キャップを確実にしめてください。こぼれた燃料は、きれいにふき取ってください。

守らないと
火災の原因になります。



危険 燃料漏れの注意

燃料パイプの点検を必ずしてください。破損が確認されたら、すぐ修理してください。また、燃料を既定以上に入れると、燃料が漏れることがあります。また、作業状況（傾斜地など）によっては、既定通りでも漏れることがあります。燃料の入れすぎに注意してください。

守らないと
火災の原因になります。



警告 マフラー・エンジン周辺部のゴミは取り除く

ワラ屑・ゴミ・燃料などが付着していないか確認してください。作業前に必ず点検を行い、付着していれば取り除いてください。

守らないと
火災事故やオーバーヒートを起こすことがあります。



警告 排気ガスには十分に注意

締切った屋内などではエンジンの始動をしないでください。エンジン始動は風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

守らないと
排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたる恐れがあります。



1 安全作業のための心得

⚠ 警告 電気部品・コードの点検

被覆が溶けたり破れたり、又コードが挟まれているか作業前に点検してください。

守らないと

ショートして、火災の原因となることがあります。



⚠ 注意 点検作業時はエンジンを停止

点検作業時やベルトの交換・爪の交換、巻き付いた草などを取り除くときは必ずエンジンを停止してください。

守らないと
傷害事故の原因
になります。



⚠ 注意 作業前後は、必ず機械の点検をする

作業前後に機械の点検を行ってください。特にクラッチレバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動不良の場合は確実に作動するように調整してください。

守らないと

整備不良による事故や機械の故障を生じる恐れがあります。



⚠ 注意 カバー類は必ず取り付ける

点検・整備等で取外した安全カバー類は、必ず元どおりに取り付けてください。

守らないと
機械の回転部分
に巻き込まれたりして、傷害事
故を引き起こす
恐れがあります。



作業機に関する注意事項

⚠ 警告 作業機の脱着は安全で平坦な固いところを選ぶ

作業機の脱着は安全で、かつ平坦な固いところで行ってください。連結部が確実にセットされているか確認してください。

守らないと

思わぬ事故をまねく恐れがあります。

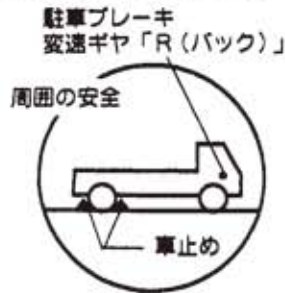


運搬時の注意事項

危険 **トラックには必ず車止め**

トラックへの積み込み、積み降ろし時は、トラックに駐車ブレーキをかけて、さらに車止めをして、トラックが動かないようにしてください。

守らないと
トラックが動いて転落事故などをまねく恐れがあります。



警告 あゆみ板は強度・長さ・幅が十分あり、滑り止めのあるものを使用

平坦で交通の安全な場所を選んでください。あゆみ板は、強度・長さ・幅が十分あり、スリップのしないものを選んでください。

守らないと
転落事故などをまねく恐れがあります。



危険 あゆみ板上でのサイドクラッチ・主ク
ラッチの操作厳禁

進路変更のないようにタイヤの位置・進路を定めて最低速度で行ってください。また主変速レバーを〔中立(N)〕にしないでください。緊急時にはエンジンを止めてください。

守らないと
転落などの事故の原因となります。



警告 積み込み・積み降ろし作業は誘導者を
つけて

積み込み・積み降ろし作業は誘導者をつけて、周囲の安全を十分確認して行ってください。

守らないと
転落などの事故をまねく恐れがあります。



警告 積み込み・積み降ろし作業中、機械の
直前には絶対に立たないで

積み込み・積み降ろし作業中は、機械の直前に絶対に立たないでください。

守らないと
傷害事故をまねく恐れがあります。



警告 登る時は前進で、降りる時は後進、
ロータリは〔中立(N)〕or「切」

登る時は前進で、降りる時は後進で、ロータリは〔中立(N)〕or「切」にして、移動してください。

守らないと
転落などの事故をまねく恐れがあります。



1 安全作業のための心得

警告 ロープでトラックに機体を確実に固定
トラックに載せての移動は、強度の十分ある
ロープで機体を固定してください。横倒して
運搬すると、燃料・オイルが漏れる場合があ
ります。

守らないと
荷台から機械が転落したりして事故をまねく
恐れがあります。



移動、ほ場出し入れ、作業時の注意事項

警告 坂道では…

- 急坂道の移動はトラック等で運搬してくだ
さい。
- 転倒やスリップに注意し、最低速度で移動
してください。
- 途中で主クラッチを切ったり、チェンジレ
バーの操作・サイドクラッチ操作は行わな
いください。
- 方向を変える時は、ハンドルを振って行っ
てください。

守らないと
本機が思わぬ方
向に動き、転倒
や思わぬ事故を
まねく恐れがあ
ります。



警告 急発進・急停止・急旋回やスピードの
出し過ぎ禁止
発進、停止はゆっくりと。坂道、凹凸道や
カーブは十分速度を落としてください。

守らないと
思わぬ事故を
まねく恐れが
あります。



警告 周囲に合図してゆっくりと発進
周囲の人に合図してエンジ
ンを始動してください。急
発進しないようにゆっくり
発進してください。

守らないと
思わぬ障害事故の原因
となる可能性があります。



警告 溝越え・高いあぜ・軟弱な場所を通る
ときは必ずあゆみ板を使用
溝越え・高いあぜ・軟弱な場所を通るときは、
必ずあゆみ板を使用してください。

守らないと
スリップや転倒に
よる事故をまねく
恐れがあります。



警告 移動時はロータリの爪を回さない
移動時はロータリの爪を回さないでください。
作業機を動かさないでください。

守らないと
爪や作業機に巻き込
まれて、ケガを負う
おそれがあります。



警告 移動時は路肩に注意

溝のある農道や、両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意して低速で走行してください。

守らないと
転落事故を起こす恐れがあります。



注意 耕うん機には人や物を載せない

どんな場合でも絶対に人を乗せないでください。

守らないと
傷害事故の原因になります。



警告 火気のあるものの近くでは走行禁止

火気のあるものの近くでは、走行しないでください。くわえ煙草での作業は絶対しないでください。

守らないと
燃料やオイルなどに引火し、火災になる恐れがあります。



警告 後進するときは低速で

転倒ないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認してください。特にハウス内では壁や支柱との間に挟まれないように注意してください。

守らないと
思わぬ傷害事故をまねく恐れがあります。

後進作業は足元に注意して!



警告 止 わき見運転や手放し運転・片手運転禁止

わき見運転や手放し運転・片手運転はしないでください。

守らないと
傷害事故の原因となります。



注意 軟弱地では、スリップ注意

雨上がりのときなど、軟弱な場所を通るときは低速運転にしてください。

守らないと
スリップや転倒の恐れがあります。



危険 ロータリの下にもぐったり、足を入れない

エンジンをかけているときは、ロータリの下にもぐったり、手を入れたり、足を踏み入れたりしないでください。

守らないと
何かの原因で作業機が動いたときに、傷害事故をおこす恐れがあります。



1 安全作業のための心得

警告 ロータリ作業や車軸作業ではダッシング（機械の飛び出し）に注意

地面が固かったり、ロータリを急激に地面に降ろしたりすると、回転する爪の勢いで、機械が思わぬ方向に飛び出すことがあります。

守らないと

特に、川や崖、人のいる方向に飛び出すと、転倒や人身事故をまねく恐れがあります。



警告 ハウス内での作業は換気を十分に

排気ガスが充満しないよう、十分に換気を行ってください。また、換気が十分でない空間では長時間の運転は行わないでください。

守らないと

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたる恐れがあります。



警告 人や動物を近づけない

人や動物を近づけないでください。特に子供には十分注意してください。

守らないと

思わぬ傷害事故の原因となります。



警告 物や人をウェイト代わりにしない

バランスウェイトの代わりに人や物を載せないでください。作業機に合った純正のバランスウェイトを使用してください。

守らないと

思わぬ傷害事故の原因となります。



警告 旋回・後進時はロータリ回転を止める

旋回や後進する時、ロータリ回転を止めてください。

守らないと

回転する爪に巻き込まれ、重傷を負うことがあります。



警告 機械から離れるときは平坦で安定した場所に置き、エンジンを止める

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めを行い、機体が動かないようにしてください。

守らないと

機械が動き出し、事故の原因になります。



警告 傾斜地で作業する時はタイヤどうしの距離を広げ、サイドクラッチは使用しない

転倒しないようにタイヤどうしの距離を広げてください。方向転換する場合はサイドクラッチを使用せずハンドルを振ってください。

守らないと

転倒事故を引き起こす原因となります。

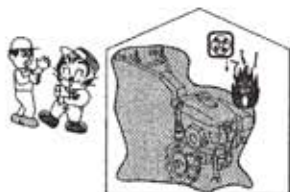


2 安全マーク貼付位置

格納時の注意事項

危険 シートは機械が十分冷めてからかける
シートは機械が十分冷めてからかけてください。

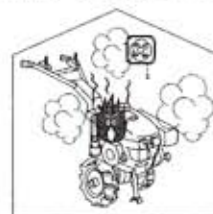
守らないと
火災事故を引き起こすことがあります。



警告 使用後の手入れ

必ずその日の内にエンジン・機械についたワラ・草・紐・泥等を取り除いてください。

守らないと
機械の故障につながります。



警告 長期格納時は燃料タンク・気化器内の
燃料を抜きバッテリーを取外す

長期保管時は燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取ってください。

また、バッテリーを搭載している機械は、バッテリーを取外してください。

守らないと
燃料が変質してエンジンの不具合を起こしたり、
火災の原因となります。



2 安全マーク貼付位置

警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

耕うん・管理機 + 安全五憲章

1. 道路走行・置場の出入り・車への積降ろしの際は必ずロータリの回転を止めます。
2. 置場を走行するときは、スピードを落とし路肩に注意します。
3. 置場の出入り・車への積降ろしは上りは前進、下りは後進で行います。
4. バックをするときはスピードをゆるめ背後の障害物に注意します。
5. 機体の点検・調整・整備は必ずエンジンを止めてから行います。この機械をお使いになるときは復唱してください。

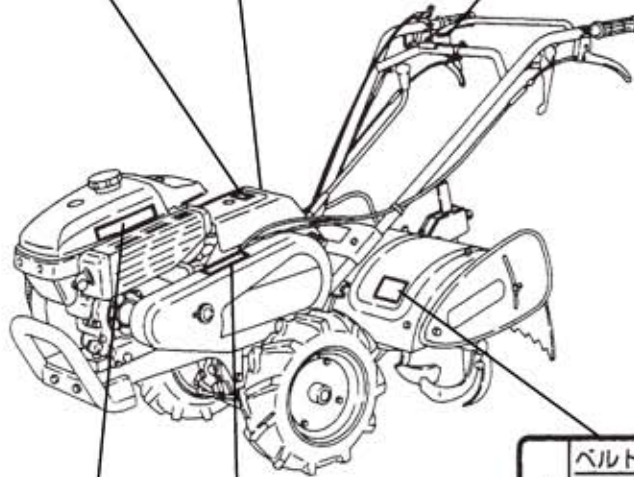
ワンタッチ
停止ボタン

8MA 0009 000

8MA 0027 000

安全作業のために
点検、調整時は必ず
原動機を停止してから
行ってください。

M86 0717 000



注意 カバーの取り付け、取り外しは、必ずエンジンを停止して行うこと。

8MA 0518 000

注意 ベルトの調整は必ずエンジン停止
エンジン下側ベルトを緩めて調整します。張り過ぎるとクラッチが切れなくなり大変危険です。(下図参照) チェンジを(止)にしてエンジン始動、主クラッチ切の状態の本機プーリーが停止しているか確認。
エンジンプーリー 55-65mm
主クラッチプーリー
エンジンプーリー

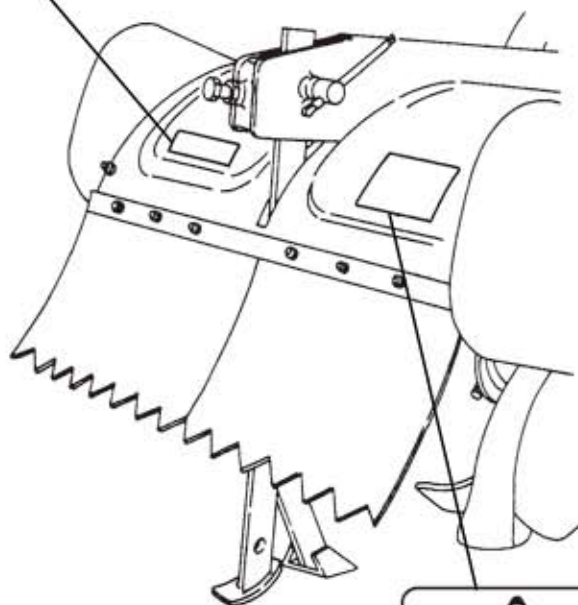
8MA 0006 000

注意	警告	危険	無鉛ガソリン
マフラー高温注意 さわるとやけどをするおそれがあります。KW56256AA	排ガスに注意 室内や換気の悪い所での運転は人体に有害で危険です。	火気厳禁 ・給油時エンジン停止 ・火災の危険あり。 給油口に火を近づけないこと。	

注意

ご使用前に取扱説明書をよく読んで安全に作業をして下さい。

8MA 0155 000

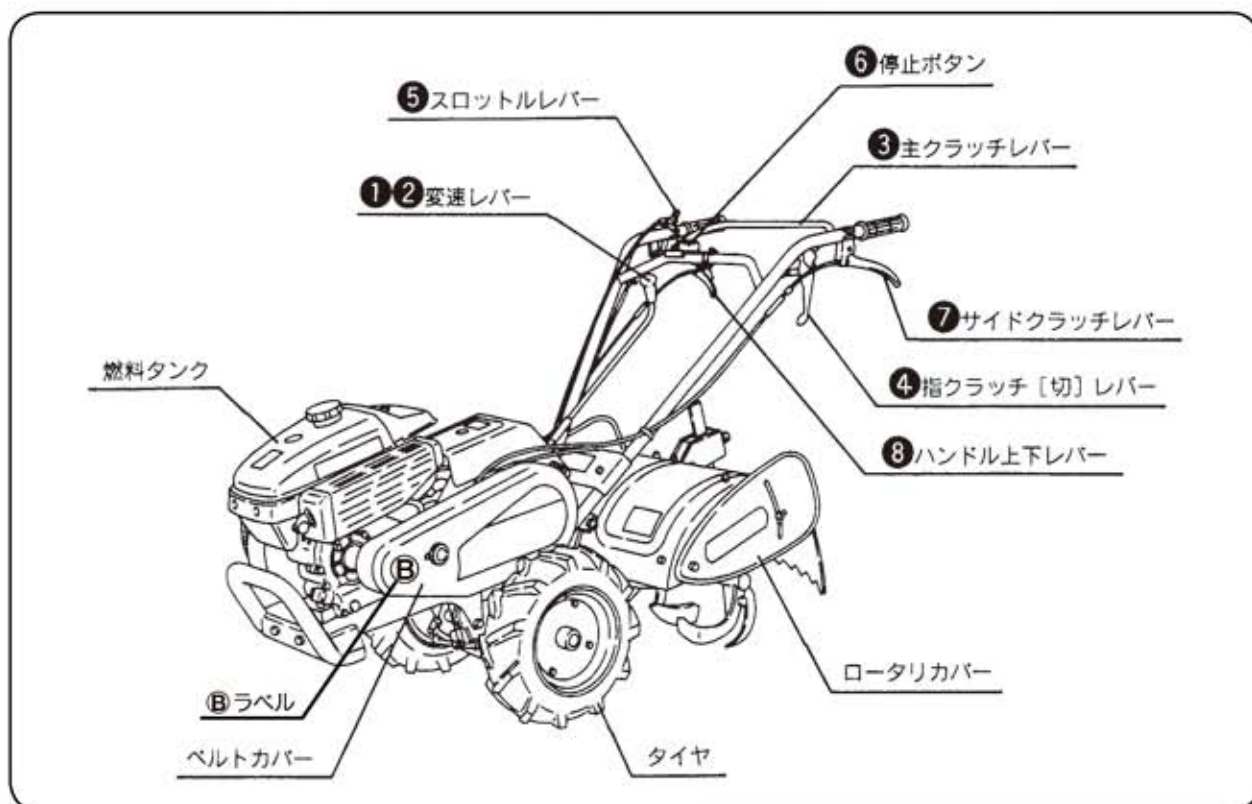


警告



後進後、ハン8MA0006000足元が意外にロータに近づき危険なので
①後方に障害物がない事を確認する。
②主クラッチが何時でも切れる様に主クラッチレバーから手を放さない。
③特に立木等の狭い所では注意。

3 各部名称とはたらき



① 変速レバー

作業内容に合わせて走行速度の調節します。
(前進2段、後進1段)

ロータリチェンジの「入」「切」を行います。

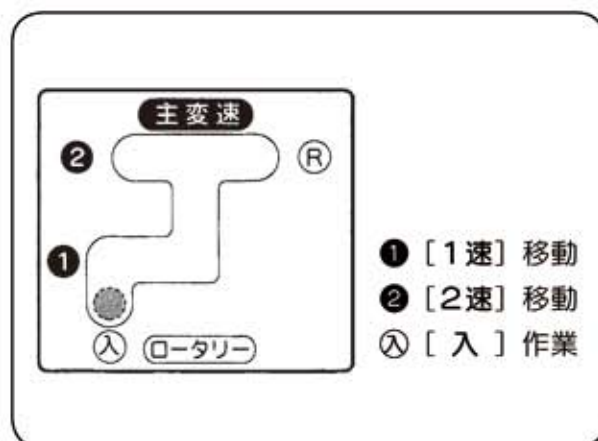
② ハンドル

③ 主クラッチレバー

主クラッチレバーを「入」の状態にすると、エンジンの駆動が機械に伝わり動き出します。主クラッチレバーを「切」の状態にすると、エンジンの駆動が機械と切り離され、本機が止まります。

※ブレーキ等で停止していない為、惰性で動くことがあります。注意してください。

※主クラッチレバーと指クラッチは一体となっていますので、指でクラッチを切ることが可能です。



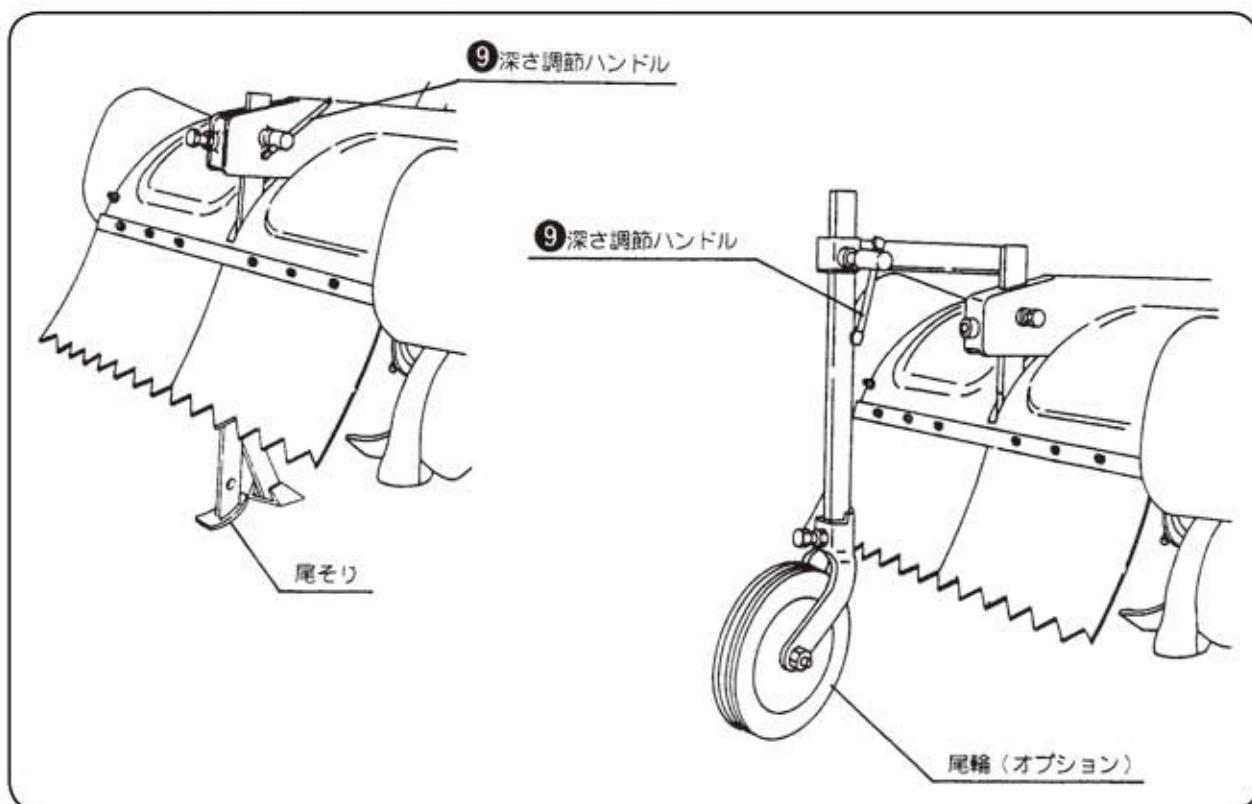
④ スロットルレバー

エンジンの回転数を調節します。

※エンジンをアイドリング状態（低い回転数）で長時間使用し続けると、未燃ガスが発生し液体状のものがマフラーから出ることがあります。エンジンの性能を低下させますので、アイドリング状態での長時間の使用はしないでください。

⑤ 停止ボタン

3 各部名称とはたらき



ボタンを押すとエンジンが停止します。（ボタンが「停止」位置になります）緊急停止の際にもボタンを押してください。なお、エンジンを起動させるには、停止ボタンを押しながら回し、「運転」位置にする必要があります。

⑥ サイドクラッチレバー

旋回したい方向のサイドクラッチレバーを握りますと、その方向に旋回ができます。

⑦ ハンドル上下レバー

レバーを握りますとハンドルの上下の高さが調節できます。（3段階）

⑧ ローター

耕うんや中耕等をする為の爪の回転体です。

⑨ ロータリカバー

⑩ 耕深調節レバー

抵抗棒を上げることで深く耕耘します。

⑪ ベルトカバー

エンジンからミッションへ駆動を伝えるベルトを覆うカバーです。

ベルトカバーは誤って回転物へ、手等を巻き込まれないようにする為の安全カバーです。エンジン起動時には必ずベルトカバーをつけてください。

⑫ ミッション

走行やロータリの変速を行う為の減速装置です。

⑬ 燃料コック

ガソリンの供給を開閉するバルブです。エンジン始動時には「開」にし、エンジン停止後は「閉」にしてください。エンジン停止後、

3 各部名称とはたらき

長時間「開」の状態にしておきますと、エンジンに不具合が発生する場合があります。

⑭ チョークレバー

「閉」の状態にし、エンジン始動後に「開」に戻してください。

※チョークを戻さずに「閉」の状態のままですとエンジン不具合の原因となります。

⑮ プルドレンツマミ

キャブレター内の燃料を抜き取る時に使用します。引くと燃料が排出されます。

⑯ エアクリナー

空気の汚れを取り除きます。エンジンを調子よく使用する為に定期的なエアクリナーの清掃をお願いいたします。

⑰ リコイルスタータ

エンジンの始動に使用します。

⑱ 点火プラグ

混合気に点火する装置です。定期的な点検をお願いいたします。

4 調子よく作業する為の日常点検項目



注意

- 毎年定期点検整備を受けてください
- 点検整備は平坦で安定した場所を選びます
- 点検作業時はエンジンを停止
- 給油・注油・点検はエンジンが冷めてから行う
- 火気厳禁

1) 燃料

自動車用のレギュラーガソリンを給油します。

タンク容量 (3.0リットル)

燃料ゲージで燃料タンク内の残量がわかります。

※ガソリンを規定量以上入れないでください。

入れすぎると、使用中にガソリンが漏れ出す場合があります。

2) エンジンオイル

出荷時はエンジンオイルは入っておりません。エンジンを水平にして規定量を入れてください。オイルゲージで規定量の点検をしてください。不足していたり、オイルを交換する時には以下のオイルを使用してください。

等級 SE級以上

粘度 SAE 10W-30

容量 (0.5リットル)

エンジンオイルの点検方法

- ①給油口のオイルゲージを外して、ゲージ先端をきれいに拭きます。
- ②ねじ込まないで差込みます。
- ③再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。

交換

- ①注油口のオイルゲージを取外してください。
- ②ドレンプラグを外して、汚れたオイルを排出してください。
 - オイルの受け皿 (0.5リットル以上) をオイルの出口の下に置いてください。
 - 汚れたオイルが完全に無くなったらドレンプラグを確実に締め付けてください。

③給油は、上記のエンジンオイルを給油口より規定量を入れてください。

- 規定量の確認は前述エンジンオイルの点検方法と同様の手順で確認できます。

④オイルゲージを確実に締めてください。

3) ミッションオイル

出荷時にはミッションオイルは入っております。

ミッションオイルの点検方法

給油プラグを外し、ミッションオイルが入っているか点検します。

※本機は規定量の確認は出来ない為、交換の際には規定量を必ず守ってください。

粘度 SAE #80 または #90

容量 (3.0リットル)

交換

- ①給油プラグを外します。ミッションケース下部のドレンプラグを抜き取り、汚れたオイルを排出してください。
 - オイルの受け皿 (3.0リットル以上) をオイルの出口の下に置いてください。
 - 汚れたオイルが完全に無くなったらドレンプラグを確実に締め付けてください。
- ②給油は、上記のミッションオイルを給油口より規定量を入れてください。
 - 規定量の確認は前述ミッションオイルの点検方法と同様の手順で確認できます。
- ③給油プラグを確実に締めてください。

4) エアクリナー

4 調子よく作業する為の日常点検項目

オイルパンの規定線まであるか点検します。不足している場合はエンジンオイルを補充します。オイルパンおよびエレメントが汚れていないか確認します。汚れている時は、白灯油にて洗浄し、エレメントは、エンジンオイルに浸し、点滴しない程度に絞って取り付けます。

5) タイヤ

損傷がないか、エアは十分入っているか確認します。またタイヤが適正に取り付けられているか確認します。(ラグの向きを確認)

6) 耕うん爪

耕うん爪の取付の配置および向きが適正に取り付けられているか確認します。また、刃受けにしっかり取り付けられているか確認します。取付け方法は x x を参照

8) 各ワイヤー

主クラッチワイヤー

クラッチの「入」「切」ができるか確認してください。不良の場合は、ワイヤー調節およびVベルトの調整、注油をしてください。

サイドクラッチワイヤー

サイドクラッチの「入」「切」が正常か確認してください。不良の場合は、ワイヤー調節および注油をしてください。

ハンドル上下ワイヤー

ハンドル上下が正常にできるか確認してください。不良の場合は、ワイヤー調節および注油をしてください。

[ワイヤーの調節のしかた]

- ①ロックナットをゆるめます。
- ②調節ナットを回して調節します。

ワイヤーを緩める：ロックナットと調節ナットの間隔を広げる

ワイヤーをきつくする：ロックナットと調節ナットの間隔を狭める

③ロックナットを締めます。

その他

①ボルト、ナットのゆるみがないか確認してください。

②各摺動部へ注油して下さい。

5 操作方法

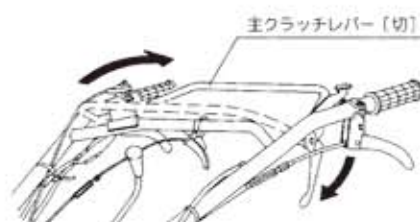


警告

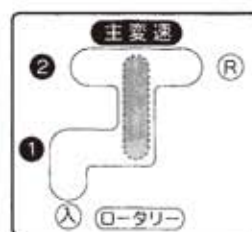
- 周囲に合図して他の人を本機に近づけないようにしてください。
- 排気ガスには十分に注意
- 火気厳禁
- エンジン始動前に、各レバーの位置と周囲の安全を確認してください。
- エンジンが停止しても、エンジンの過熱部分には、すぐ手を触れないでください。
- ほ場が固いとダッシングが起こりやすいので注意してください。

エンジンの始動のしかた

①主クラッチレバーが「切」になっているか確認します。



②変速レバーが「中立 (N)」になっているか確認します。

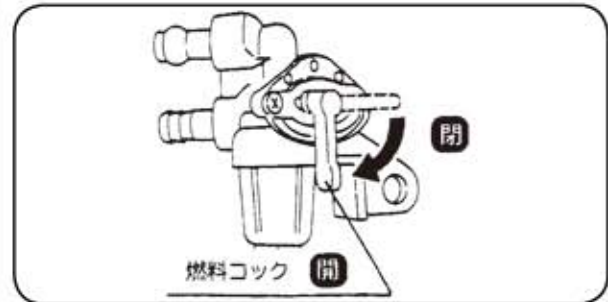


③スロットルレバーを中間の位置にします。

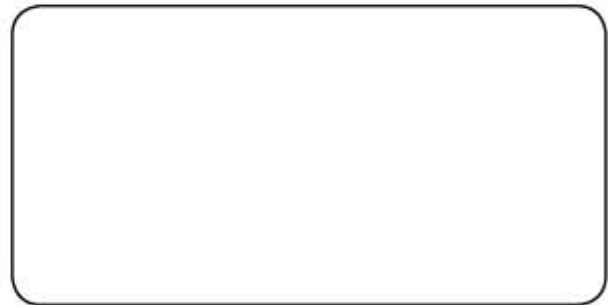


5 操作方法

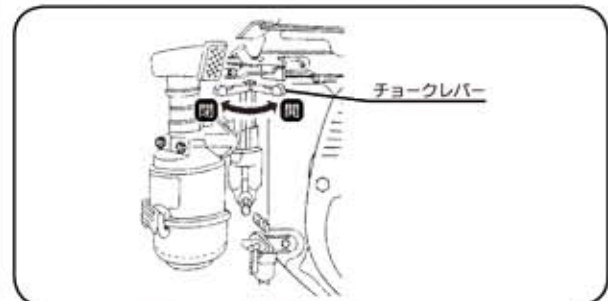
④燃料コックを「開」の状態にします。



⑤チョークレバーを「閉」の状態にします。



⑥停止ボタンを押しながら回して、「運転」位置にします。

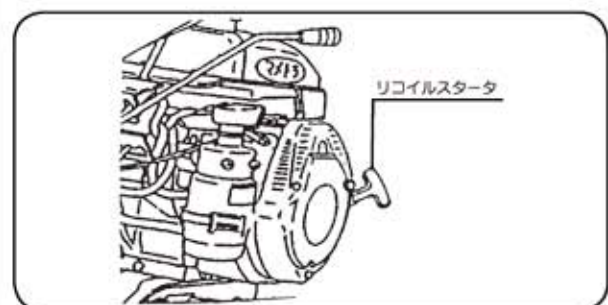


⑦リコイルスタータを引っ張りエンジンを始動します。

始動したらチョークレバーを「開」の状態に戻します。

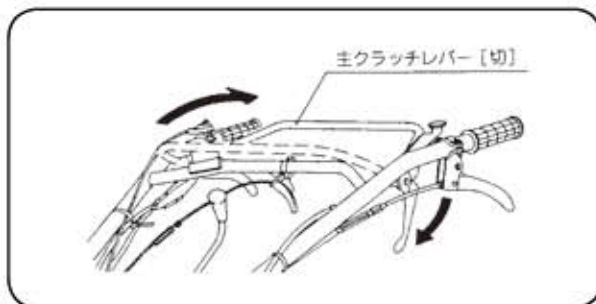
※3回以上引っ張っても始動しない時は、燃料の吸い過ぎとなりますので、チョークレバーを「開」の状態にしてリコイルスタータを引っ張ってください。

※スロットルレバーを「低」の位置にし、2～3分暖機運転をしてから作業を開始してください。

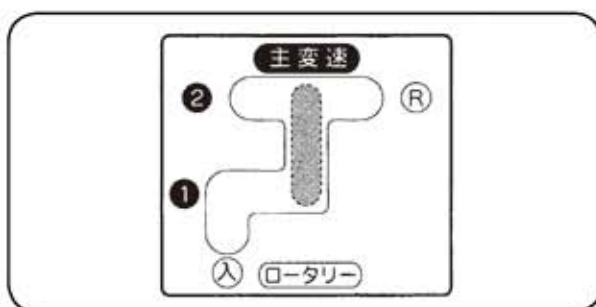


エンジンの停止のしかた

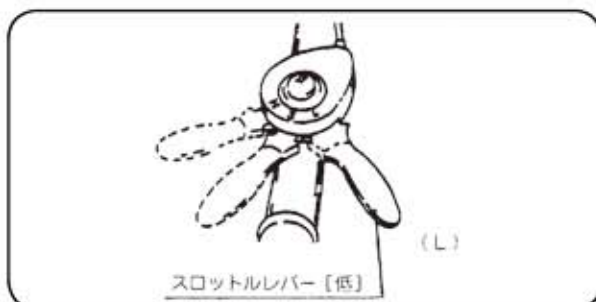
①主クラッチレバーを「切」にします。



②主変速レバーを「中立 (N)」にします。



③スロットルレバーを「低」の位置にします。



④停止ボタンを押すと左に回って「停止」位置になり、エンジンが止まります。



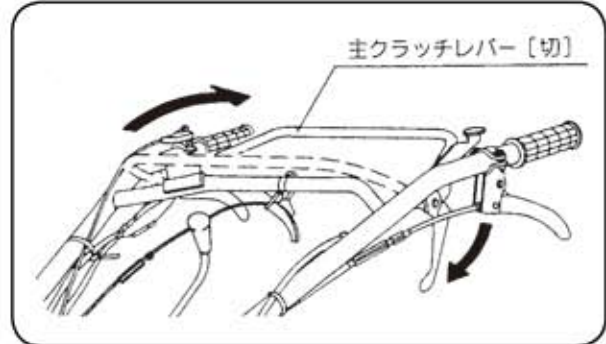
⑤燃料コックを「閉」の状態にします。



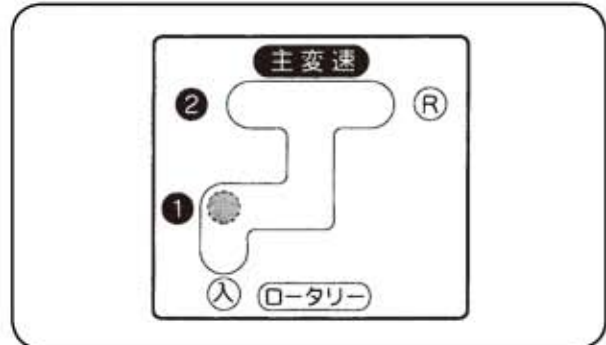
5 操作方法

発進のしかた

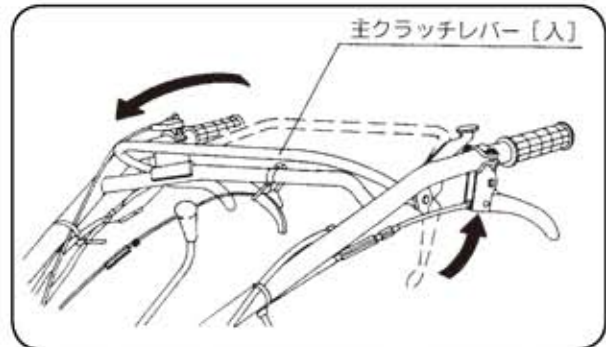
①主クラッチレバーを「切」になっていることを確かめます。



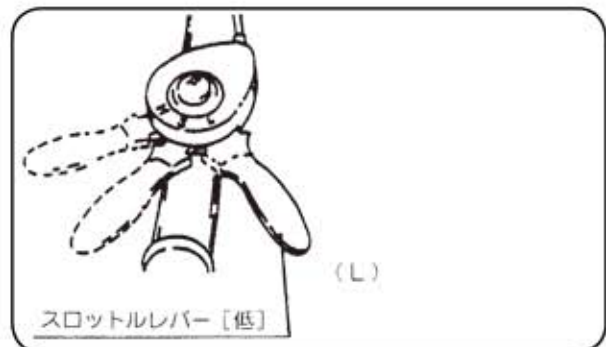
③スロットルレバーを「低」の位置にします。



④変速レバーを希望の変速位置にします。
※その際、主クラッチレバーを「切」にしてから行ってください。
主変速レバーの変更がしにくい場合（ギアの噛みあい位置の問題で入りにくい場合があります）は無理に入れずに、スロットルレバーを「低」の位置にしてから、主クラッチレバーを半クラッチ状態にして、変速してください。



⑤主クラッチレバーを徐々に前方に倒して、「入」位置にします。ハンドルを握ったまま黒色のマメクラッチレバーを親指でゆっくり下に押し進めさせることもできます。



⑥スロットルレバーを回して、速度を調整してください。

ダッシングに注意

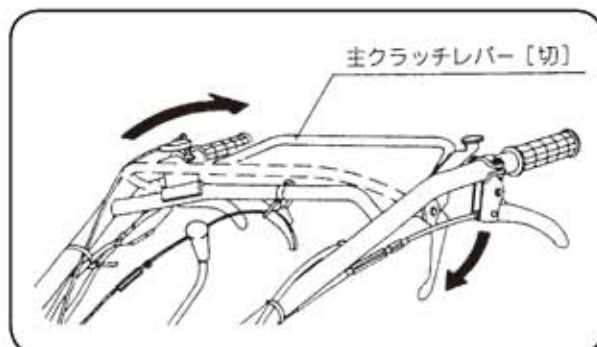


警告

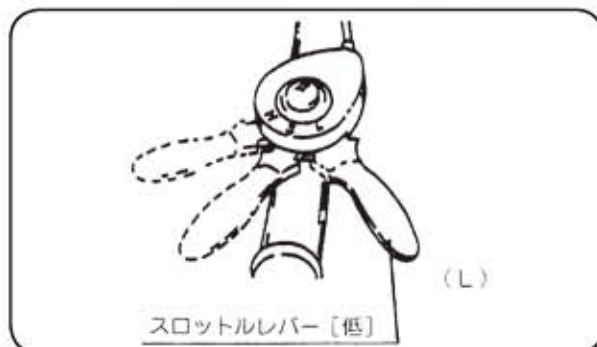
- ほ場が固いと、ロータリの回転による推進力がタイヤの推進力より大きくなり、思わぬ方向へ機械が飛び出すことがあります。
- ロータリが進行方向に回っている場合は、機械が作業者と反対側に飛び出します。またロータリが進行と逆に回っている場合は、機械が作業者側に飛び出します。ロータリ作業中、固いほ場で行った場合、急にダッシングが起きる為、びっくりしてエンジン停止の対処が遅れることが考えられますので、十分注意してください。
- 固いほ場は、浅く数回に分けて耕うんしてください。

変速・ロータリチェンジのしかた

①主クラッチレバーを「切」にします。

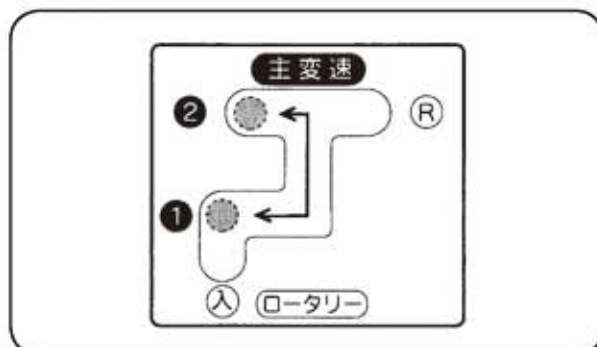


②スロットルレバーを「低」の位置にします。



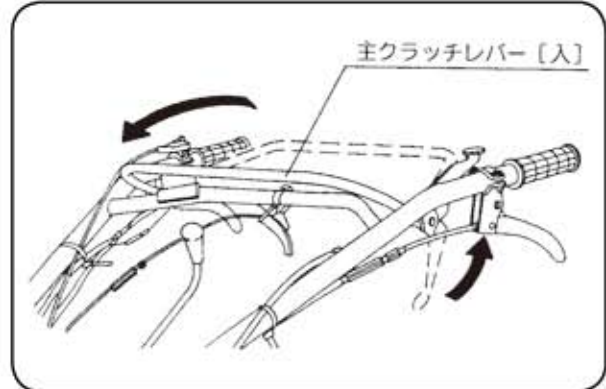
③変速レバーを希望の変速位置にします。

※主変速レバーの変更がしにくい場合（ギアの噛みあい位置の問題で入りにくい場合があります）は無理に入れずに、スロットルレバーを「低」の位置にしてから、主クラッチレバーを半クラッチ状態にして、変速してください。

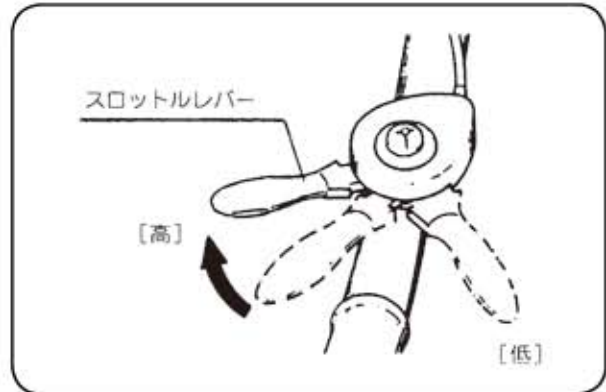


5 操作方法

④主クラッチレバーを徐々に前方に倒して、「入」位置にします。ハンドルを握ったまま黒色のマメクラッチレバーを親指でゆっくり下に押し進ませることもできます。



⑤スロットルレバーを回して、速度を調整してください。



旋回のしかた



警告

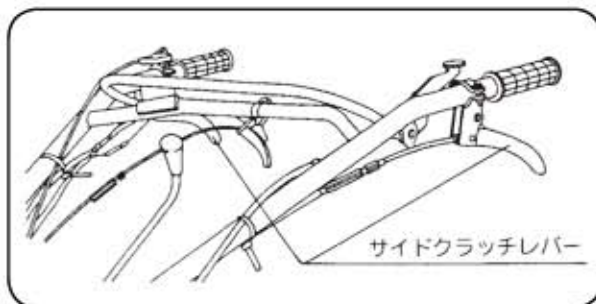
- 周囲に合図して他の人を本機に近づけないようにしてください。
- 旋回する時は、必ずロータリを止めてから行ってください。
- 坂道でのサイドクラッチは使用しないでください。
- 狭い場所での作業や、後進時は、低速で作業をしてください。
- 傾斜地や後進時にハンドルが持ち上がり、体や首が挟まれる場合がありますので、主クラッチの操作はゆっくり行ってください。

①「変速ロータリチェンジのしかた」の手順で、ロータリを「切」にします。



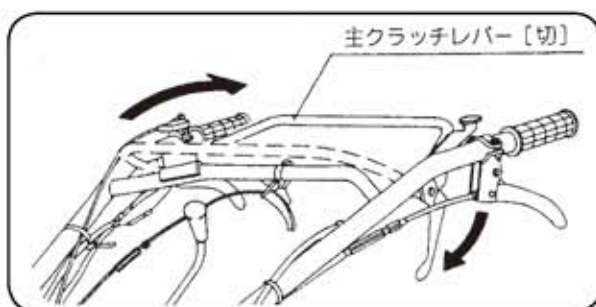
② 旋回したい方向のサイドクラッチレバーを握りますと、その方向に旋回ができます。

注意：坂道でのサイドクラッチ操作は絶対しないでください。思わぬ方向に機械が急に曲がる為、大変危険です。

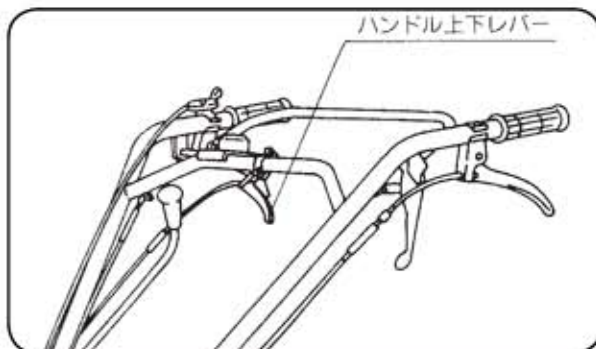


ハンドル上下調整のしかた

① 主クラッチレバーを「切」にします。



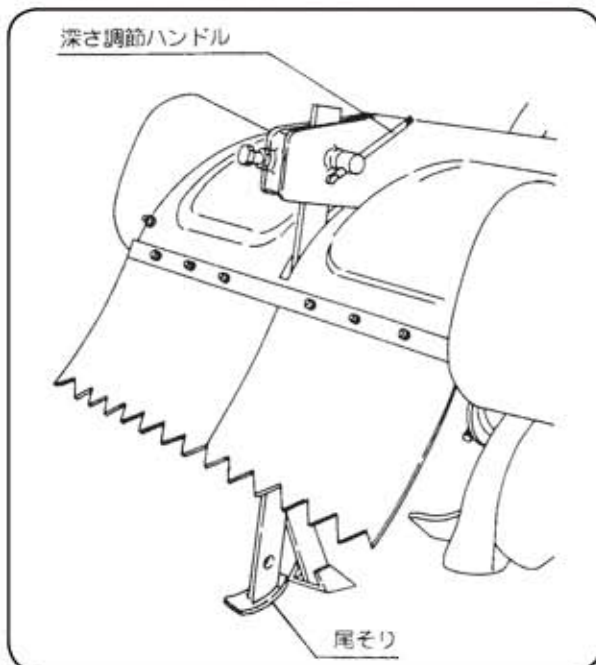
② ハンドル上下レバーを握って、好きな高さに調整します。



耕うんの深さ調整のしかた

耕深調節レバーを緩めて、尾ソリ上下させ調整します。

尾ソリorを上げますと、深く耕うんします。
下げますと、浅く耕うんします。



6 トラックへの積込み・積降ろしのしかた

トラックへの積込み・積降ろしのしかた



警告

- 積込み・積降ろしの場合は、トラックを確実に動かないようにし、平坦で安定した場所を選んでください。
- 積込み・積降ろし作業中は、絶対に機体の前に立たないでください。
- あゆみ板は強度・長さ・幅が十分あり、滑り止めのあるものを使用してください。
- あゆみ板の上では、絶対に主変速レバーを[中立(N)]にしないでください。また主クラッチレバーも「切」にしないでください。サイドクラッチの操作もしないでください。守らないと機体が思わぬ方向へ動き出し、転落の恐れがあります。
- ロータリを動かした状態で積込み・積降ろしはしないでください。
- 強度が十分あるロープで、トラックに機体を確実に固定してください。また、横倒しで運搬しないでください。
- ガソリンは最低限の量にしてください。多く入った状態で運搬しますと、振動等で漏れる恐れがあります。

- ①平坦で、周囲に危険物や人がいないところを選び、トラックを確実に駐車させます。
- ②機体の車輪幅を考慮し、あゆみ板のフックをトラックの荷台に確実に固定します。
- ③機体の左右タイヤがあゆみ板の中央に位置するように機体をセットしてから積込み・積降ろし作業を開始します。
- ④積込みの場合は[前進1(低速)]で、積降ろしの場合は[後進1(低速)]で、ゆっくり行ってください。

積込み時

- ⑤燃料コックを「閉」にしてください。
※燃料コックを「開」にしたまま運搬しますと、キャブレター内のガソリンがオーバーフローし、エンジンの始動が困難となったりクランク内にガソリンが流入することがあります。

<あゆみ板の基準>

- 長さ：車の荷台高さの4倍のものを使用してください。
- 幅：本機の手車幅にあつたものを使用してください。
- 強度：本機の重量および作業者の重量を加味して、十分耐えうるものを使用してください。
- 表面：滑らないように処理してあるものを使用してください。

⑥強度が十分あるロープで、トラックに機体のハンドルや抵抗棒・尾輪、バンパー等を利用して確実に固定します。

※横倒しでの固定はしないでください。

ロープを駆けるとき、主クラッチレバーや燃料タンク・エアクリナー、ハンドル部のワイヤーなどに、ロープが触れないよう気をつけてください。破損したり、機能が損なわれるおそれがあります。

7 整備・点検



注意

- 毎年定期点検整備を受けてください
- 点検整備は平坦で安定した場所を選びます
- 点検作業時はエンジンを停止
- 給油・注油・点検はエンジンが冷めてから行う
- 火気厳禁

定期点検一覧表

安全の為、そして故障を未然に防ぐ為に、機械を定期的に点検する必要があります。一般的な使用条件下での点検・整備の項目は下表の通りです。

点検・整備の項目	日常点検 (作業時)	25時間毎	50時間毎	100時間毎	参照ページ
エンジンオイルの点検と補給	○				xxページ
エンジンオイルの交換		○ (初回のみ)	○		xxページ
ミッションオイルの点検と補給	○				xxページ
ミッションオイルの交換		○ (初回のみ)		○	xxページ
エアクリナーの清掃	○				xxページ
タイヤの点検	○				xxページ
刃受けおよび爪の点検と交換	○				xxページ
ワイヤーの点検	○				xxページ
ボルト・ナットの点検	○				xxページ
各摺動部へ注油	○				xxページ
ベルトの点検と調整		○			xxページ
ストレーナーの清掃		○			xxページ
点火プラグの調整と交換			○		xxページ

エンジンオイル

調子よく作業する為の日常点検項目の頁
(xxページ) 参照

ミッションオイル

調子よく作業する為の日常点検項目の頁
(xxページ) 参照

エアクリナー

調子よく作業する為の日常点検項目の頁
(xxページ) 参照

タイヤ

調子よく作業する為の日常点検項目の頁
(xxページ) 参照

刃受けおよび爪

調子よく作業する為の日常点検項目の頁
(xxページ) 参照

各ワイヤー

調子よく作業する為の日常点検項目の頁
(xxページ) 参照

ベルトの点検・調整

Vベルトが伸びますと、テンションの張りが弱くなりベルトがスリップし、走行およびロータリ作業が出来なくなります。

※ごく稀に、作業状況によってベルトに熱がもち、ベルトが縮む場合があります。この状態で使用しますと、主クラッチレバーを「切」にしても機械が止まらない場合があります、非常に危険です。日常点検で主クラッチレバーの点検を確実に行ってください。

Vベルトの調整方法

- ①エンジン取付ボルト（4本）、ベルトカバー裏板取付ボルト（1本）を緩めてください。
 - ②主クラッチレバーを「入」にします。「入」にすることで、ベルトテンションが上がり、ベルトを張る状態にします。
 - ③Vベルトの張りを確認しながら、エンジン位置の調整を行います。張りの状態は、ベルトテンションが上がった状態で、テンションと反対側のベルト中央を指で軽く押さえて、ベルトのたわみ量が10～15mmになるようにします。
 - ④エンジン位置が決まりましたら、緩めたエンジン取付ボルト（4本）およびベルトカバー裏板取付ボルト（1本）を締め付けます。
 - ⑤主クラッチレバーを「入」にした状態で、ベルト押さえとベルトの間隔が2～4mmになるように、ベルト押さえの調整を行います。
 - ⑥主クラッチレバーを「切」にし、停止ボタンが「停止」の状態、リコイルを2、3回引きます。ベルトが回らないことを確認します。その後、主クラッチレバーを「入」にし、停止ボタンが「停止」の状態、リコイルを2、3回引きます。ベルトが回ることを確認します。
- ※Vベルトの調整が出来ないくらいに、ベルトが伸び縮みした場合は、新しいベルトと交換してください。

ストレーナーの清掃方法

燃料の中に混入した水やゴミがストレーナーに沈殿しますので、ストレーナーを外してゴミや水を取り除きます。

※清掃する時は、必ず燃料コックを[閉]にしてください。[開]の状態ですトレーナーを外しますと、燃料タンク内の燃料が排出しますので、必ず[閉]にしてください。

点火プラグの調整と交換

エンジンの調子が悪い時には、点火プラグに原因があることがあります。

プラグを取り外し、カミヤスリ等で磨いて、電極に付着のカーボンを取り除き、電極の隙間を調節します。（はがき2枚分?）

調節が終わったら、点火プラグを元の位置にねじ込みプラグキャップを確実に差し込んでください。プラグを交換する際には、必ず以下の規定のプラグを使用してください。

規定プラグ：X X X X X

8 長期保管のしかた



警告

- 点検作業時はエンジンを停止
- 給油・注油・点検はエンジンが冷めてから行う
- 火気厳禁
- こぼれた燃料はふき取る
- シートは機械が十分冷めてからかける

①本機の清掃・洗淨・注油

タイヤやロータリに付着した、泥、ゴミ、塵などは水洗いし、水洗い後はよく水分を拭き取りてください。その後、各回転部、摺動部にたっぷり注油してください。

②主クラッチレバー

主クラッチレバーは「切」にして、ベルトに無理な力がかからないようにしてください。
※主クラッチレバーを「入」の状態にしたまま長期保管しますと、ベルトの形にクセがつき、次回の始動時に機械に不具合を起こす場合があります。

③エンジンオイル

オイル交換の時期になっている時は、日常点検の手順に従ってオイルを交換してください。

④燃料の抜取り

エンジンを30日以上使わない時は、燃料変質による始動不良を防止する為に、ブルドレイイツマミを引いて、キャブレター内と燃料タンク内の燃料を抜いてください。

⑤シリンダ

エンジンのシリンダの保護の為、リコイルスタータを引っ張って、圧縮位置で止めておきます。

⑥カバーをかけ、湿気やホコリ等が無い場所に保管してください。

10 不具合と対策方法

不具合と対策方法	対 策 内 容
<p style="text-align: center;">エ ン ジ ン 不 調</p>	<p>①手順の確認 エンジンの始動のしかたを確認してください。</p> <p>②燃料の確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 燃料タンク内に燃料が入っていることを確認してください。 2. 古い燃料を使用していないことを確認してください。(劣化した燃料を使用すると、キャブレターに目詰まりを起こします) 3. 燃料コックが「開」になっていることを確認してください。 4. プルドレインツマミを引いて、燃料パイプの詰まりが無い か確認します。 <p>③ストレーナーの確認 ストレーナーに水やゴミが溜まってないか確認します。溜まっていた場合は、清掃を行ってください。</p> <p>④点火プラグの確認 点火プラグにカーボンが付着していないか確認します。点火プラグを清掃しても火花が飛ばない場合は、新しい点火プラグと交換します。</p> <p>⑤エアークリーナーの確認 エアークリーナー内の汚れを確認します。汚れている時は清掃してください。</p> <p>⑥チョークの確認 チョークが「閉」の状態でも度もりコイルを引き、ガソリンを吸い過ぎると点火プラグが湿りがちとなりますので、プラグを乾かしてから使用してください。</p> <p>⑦エンジンオイル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジンオイルの点検を行います。交換が必要な場合は手順に従って交換してください。 2. 燃料コックを閉じないまま、エンジンを倒したり、運搬等をしますと、キャブレターがオーバーフローする場合があります。クランクケース内にガソリンが混入していたら、新しいエンジンオイルと交換してください。

<p>主クラッチが入らない、切れない</p>	<p>①主クラッチワイヤーの確認 テンションとベルトが適正に連動しているか確認します。主クラッチワイヤーの調整を行います。</p> <p>②Vベルトの確認 Vベルトが主クラッチ「入」時に回ることを確認します。「切」時に回らないことを確認します。不具合時は、Vベルトの調整を行います。 Vベルトに損傷が無いこと、および形が歪でないことを確認します。損傷時や形が歪な時は新しいベルトに交換してください。</p>
<p>主変速レバーやロータリチェンジレバーが入らない、入りにくい</p>	<p>ギアの噛みあい位置により、入らなかったり、入りにくい場合があります。ロータリやタイヤを少し動かしてから入れてみてください。</p>

11 消耗部品一覧

コード番号	品名	個数	備考
9VA 0440 003	Vベルト LA-44吋	2	
M81 0719 000	ナタ爪 M81L	7	(SRV35FX・Bは6)
M81 0739 000	ナタ爪 M81R	7	(SRV35FX・Bは6)
M40 0505 002	ナタ爪 M40L	1	(SRV35FX・B)
M40 0525 002	ナタ爪 M40R	1	(SRV35FX・B)
R05 0312 000	中耕ロータ曲り爪L	1	(SRV35FX・B)
R05 0319 000	中耕ロータ曲り爪R	1	(SRV35FX・B)
9OS 3562 1914	オイルシール (車輪部)	2	
9OS 3055 1710	オイルシール (ロータリ部)	2	(SRV35F・B)
9OS 2540 0740	オイルシール (ロータリ部)	2	(SRV35FX・B)
M40 5131 000	ジクツキシール	2	(SRV35FX・B)
M40 5132 001	スポンジシール	2	(SRV35FX・B)
M40 5135 000	防塵リング	2	(SRV35FX・B)
M81 0819 002	テンションワイヤー	1	
M81 1011 001	サイドクラッチワイヤー	2	
M81 2552 000	スロットルワイヤー	1	
具の他ゴム製品			

12 付属品確認

コード番号	品名	個数	備考
M26 1111 000	シャジクピン	1	
9RP 1023 000	Rピン	1	
M40 0502 000	ドラムセットボルト	1	
9NL 1000 003	ロックナット M10	1	
M40 4411 000	ボックススパナ	1	13×17
M81 9010 000	本機取扱説明書	1	
9TL 1701 900	スパナ 17×19	1	
9TL 1201 400	スパナ 12×14	1	
F R 4 7 0 3 2 C	ボックススパナ	1	
K N 1 3 0 0 1 A A	スクリュードライバー	1	
K N 5 2 0 2 5 A A	エンジン取扱説明書	1	
111 1530 001	工具袋	1	

13 仕様

シリーズ名		MPCシリーズ	
型式		MPC-5SB	
大きさ	全長 mm	1515	
	全幅 mm	655	
	全高 mm	865	
重量 kg		90	
エンジン	型式	GB130LN	
	種類	空冷4サイクルOHV	
	排気量 cc	126	
	定格出力 ps/rpm	2.3 [3.1] /3600	
	最高出力 ps/rpm	3.0 [4.2] /4000	
	始動方式	リコイル	
	燃料タンク容量 ℓ	3.0	
走行部	変速段数	前2後1	
	操向クラッチ	サイドクラッチ	
	速度 (km/h)	前進1速	1.0
		2速	3.0
		3速	—
		後進	1.1
		—	
タイヤ	3.50-7		
ロータリ	変速段数	正1	
	耕幅 mm	500	
	耕耘軸回転数	低速	217
		高速	—
	ロータリカバー形状	固定式	
主クラッチ	アーチ型		
ハンドル	ハンドル形状	角	
	ハンドル上下調節	3段	
	ハンドル回動	—	
その他		—	

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO



マメトラ 農機株式会社

本 社	☎363-0017	埼玉県桶川市西2丁目9-37	☎048(771)1181(代)	FAX048(771)1529
秋 田 工 場	☎018-0134	秋田県にかほ市象潟町西中野沢字家の下2-3	☎0184(43)4160(代)	FAX0184(43)4120
秋 田 営 業 所	☎018-0134	秋田県にかほ市象潟町西中野沢字家の下2-3	☎0184(43)4121(代)	FAX0184(43)4120
山 形 営 業 所	☎994-0012	山形県天童市大字久野本3920-1	☎023(654)0681	FAX023(654)7387
福 島 営 業 所	☎960-0102	福島県福島市鎌田字一里塚1-1	☎0245(53)0885	FAX0245(53)6768
新 潟 営 業 所	☎940-1104	新潟県長岡市撰田屋町字崩2617	☎0258(23)1329	FAX0258(23)1354
長 野 営 業 所	☎388-8006	長野県長野市篠ノ井御幣川496-6	☎026(293)4888-2693	FAX026(292)0815
茨 城 営 業 所	☎310-0853	茨城県水戸市平須町新山1828	☎029(241)3751-3752	FAX029(241)3752
栃 木 営 業 所	☎322-0026	栃木県鹿沼市茂呂645-4	☎0289(76)0187	FAX0289(76)0069
群 馬 営 業 所	☎379-2105	群馬県前橋市東大室町183	☎027(268)3119	FAX027(268)3862
中 部 営 業 所	☎501-6233	岐阜県羽島市竹鼻町飯柄370-1	☎058(393)0041	FAX058(391)3014
マメトラ四国機器(株)	☎790-0047	愛媛県松山市余戸町南1丁目23-18	☎089(973)2325	FAX089(971)2563

お客様メモ

購入日	平成	年	月	日
購入店名				

145 9001 000
8314-00-0000